

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

傷害速報 No.3、No.11 スーパーボールによる窒息の類似事例 2

事例	年齢：1歳 9か月 性別：男 体重：10kg 身長：90cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	木製の球体	
臨床診断名	異物誤嚥・窒息・心肺停止・低酸素性脳症・誤嚥性肺炎	
医療費	2,739,290円	
発生状況	発生場所	自宅居間
	周囲の人・状況	自宅で母親と一緒に遊んでいた。
	発生年月日・時刻	2013年 4月 29日 午後 5時 50分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	<p>自宅の居間で母親と遊んでいた。母親が目を離した隙に木製の球体を2個、誤嚥した。母親が慌てて1個は取り出したが、残りの一つは取り出せず、チアノーゼと意識障害を認めたため、救急を要請した。救急隊が到着時に自己心拍はあったが、搬送途中に心肺停止となり、救急隊が残りの1個を取り出して病院に到着した。</p> <p>木製の球体(写真)は、直径が25mmのボールであった。母親によると、このボールは外国製の木製のおもちゃの部品で、友人からのプレゼントであった。箱を捨ててしまったために、製品名、メーカーはわからない。遊び方は、穴に木製のボールを入れて転がっていくおもちゃであるとのことであった。</p>
治療経過と予後	<p>病院到着時は心静止であり、気管挿管をして心肺蘇生を継続した。挿管後の波形確認で心拍再開を確認した。最大心肺停止時間は約9分間であった。救命センターへ入室し、人工呼吸管理・低体温療法を行った。低体温療法は48時間施行し、鎮静・鎮痛剤及び、ドパミンで循環動態を維持した。低体温療法終了後、鎮静剤を中止し、3日後に抜管した。誤嚥性肺炎に対して1週間、抗菌薬を使用した。</p> <p>脳波では後頭葉に棘波を疑わせる所見があり、頭部MRI検査では拡散強調画像で後頭葉に高信号を認めた。受傷から2週間後に小児科病棟へ転棟した。嚥下訓練、リハビリを継続した。退院時には立位は可能になり、食事も以前と同様の物が食べられるようになった。視力に関しては、はっきり数値値はできないが、光覚弁から人物の区別がつく程度までは回復している。</p> <p>再診(2013年6月11日)時には、物は完全に見えており、視線も合い、追視可能となった。また、自立歩行も可能であった。</p>	

